

北斗市

山下 涼

1 概要

北斗市は、図 1 のように、渡島地方中部に位置する（濃いピンクの部分）。渡島地方では 3 番目の市である。南東部の大半が平野部、西部は山岳である。また、市の南側は函館湾に面しており、中央を南北に大野川が流れている。

気候は北海道の中では全般的に寒暖の差が少なく、温暖な気候であり、積雪も比較的多い。しかし、夏の降水量は比較的多い。

北斗市の市章(図 2)は、北斗市の「北」と頭文字の「H」をモチーフに、青が上磯町の海緑が大野町の大地を表し、2 つの町が躍動的に結びつくイメージを黄色で表している。また、北海道新幹線によって、本州と北海道がつながる一番最初の市という思いが込められている。

2 歴史

北斗市は平成の大合併の影響を受けて、2006 年、上磯町と大野町の合併によって誕生した都市である。つまり、北斗市としての歴史はまだほぼ無いに等しいといえる。なので、合併して北斗市になる以前の上磯町と大野町の歴史を見ていくことにする。

まず、上磯町は、先史時代からアイヌの祖先が住んでいた。和人が定住するようになったのは、室町時代の末期のころといわれる。当時は漁業を営む集落が海岸沿いにできていた。その後、移住者により水田が開拓され、1694年に稲作が行われた記録が残っている。

1880年に上磯村を元村として戸長役場が設けられ、1900年1級町村制を施行し、1918年には町制を施行し、1955年4月隣接の茂別村と合併して今日に至っている。戊辰戦争の激戦地となった本町には、国指定史跡松前藩戸切地陣屋にその郭壘が保存され、その激戦を物語っている。

農漁業を中心に発展した産業は、1890年セメント製造の開発によって急速に第2次産業へ移行して来たが、近年、函館圏域がテクノポリスに指定されたことに伴い、本町のテクノポリス上磯工業団地や上磯町追分地区農工団地へ多数の企業の進出が図られ、町民・企業・



行政の連携・協働による町づくりを目標に「ビジョン・α21あなたが主役未来展開」へ向かって一歩ずつ踏みしめながら歩んでいる。その他町政等に関わる歴史は表1のとおりである。

表 1:上磯町の歴史

1900 年、上磯部上磯村、中野村、清川村、谷好村、豊川村が合併し、上磯村となる。
1918 年、町制施行により、上磯町に改名する。
1955 年、上磯郡茂別村を編入する。
1978 年、上磯町総合体育館が完成する。
1981 年、自治制施行 100 周年により、記念式典が挙行される。
1991 年、上磯ダム完成、共用開始される。
1997 年、上磯町総合文化センターが完成。
2001 年、上磯町温水プールが完成。
2006 年、大野町と合併し、北斗市となる。

出典:行財政概要中用紙 概要

次に大野町は、郷土の起源を明らかにする記録はない。しかし、社寺の創立や再建の記録によると 1620 年にさかのぼると推測される。一方、北海道史には大野村の名が初めて出てくるのが 1690 年で、津軽一統志には戸数 20 戸ばかりと記されている。また、大野町は北海道における水田発祥の地といわれ、1660 年代に松前藩主の命により米の試作が行われた記録、1685 年に字文月に水田を開き米作を試みたという記録、1692 年に字文月で米を収穫したという記録が残されており、現在はこの地に記念碑が建てられている。

1880年、大野ほか 5か村に戸長役場が設置され、1900年に大野村として1級町村の指定を受け、1900年には町制が施行される。1970年に函館圏都市計画区域の指定、1984年にテクノポリス函館、1994年に函館圏地方拠点都市の地域指定がされた。近年は、工業団地の造成による企業誘致や宅地開発による都市化の進展により、自然、産業、生活空間の調和のとれた田園都市をめざしている。その他町政等に関わる歴史は表2のとおりである。

表 2:大野町の歴史

1900 年、亀田郡大野村、本郷村、市渡村（いちのわたり）、文月村（ふみづき）、千代田村、一本木村が合併し、亀田郡大野村になる。
1957 年、町制施行により大野町に改名する。
1972 年、役場庁舎が新築される。
1980 年、中央公民館が落成する。自治制施行 100 周年により、記念式典が挙行される。
1987 年、大野バイパスが開通する。
1992 年、健康センター「せせらぎ温泉」ができる。
1998 年、農業振興センターが完成する。
2001 年、保健センターが完成する。
2003 年、大野ダムが完成する。
2006 年、上磯町と合併。北斗市となる。

出典:行財政概要中用紙 概要

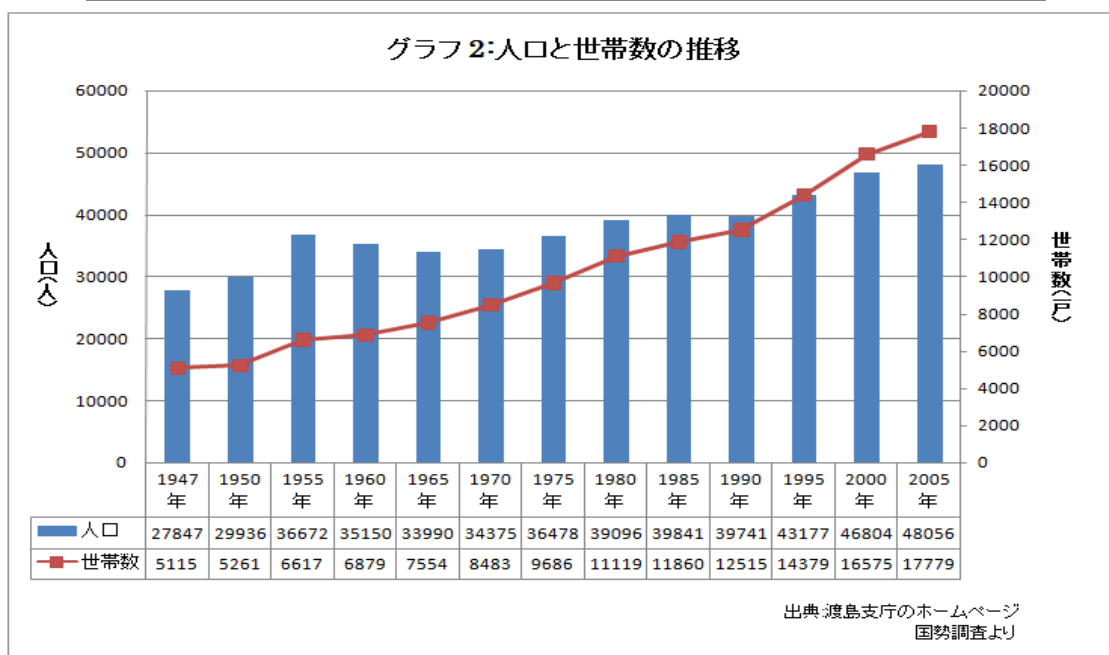
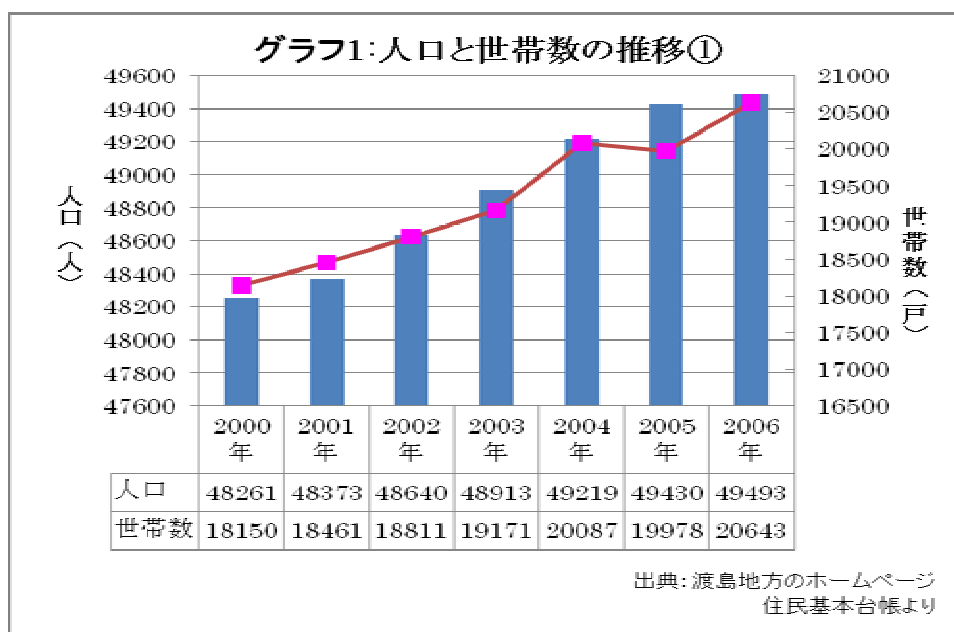
では、どのような経緯で上磯町と大野町が合併し、北斗市が誕生したのだろうか。

2000 年頃から始まった平成の大合併の煽りを受けて、2003 年に合併協議が開始された。

その後 2004 年に上磯町、大野町法廷合併協議会が設置され、協議は順調に進み、合併された都市の名称が「北斗市」に決定した。さらにその後、2005 年に市章(後述)も決定し、2006 年 2 月 1 日上磯町と大野市は合併し「北斗市」が誕生した。

このように、北斗市としての歴史はまだ浅い。だから、これからどのような歴史を作るのが楽しみである。

3 人口、世帯数



グラフ 1 の住民基本台帳のデータでは、北斗市の人口は基本的に増加傾向にあるといえ

る。一方、北斗市の世帯数は 2005 年に一度減少したが、2000 年～2006 年の範囲で見れば、世帯数は増加傾向にあるといえる。これは、住民基本台帳から得たデータである。では、ここに出ているデータ以前はどうなっていたのか。

グラフ 2 の戦後以降の国勢調査のデータによると、まず、戦後(確保した資料の都合で 1947 年)から 1970 年まででは、世帯数は上昇しているが、人口は 1955 年に急激に上がっているがそれ以降 10 年間人口が減少していることがわかる。1970 年代以降では人口は 1990 年に減少した以外では基本的に増化傾向にあるといえる。一方、世帯数も増加傾向にあることがわかる。

したがって、戦後以降北斗市の人口は一時期を除いて年々増加し、世帯数は年々増加していることがこれらのグラフから読みとれる。

北斗市は 2006 年に合併したため、上磯町と大野町の人口、世帯数の合計を過去の北斗市の人口、世帯数とする。

4 産業

2005 年のものしかなかったので、上磯町と大野町の数値の合計を北斗市の数値とする。

4,1 産業別就業人口

産業別就業人口は第三次産業、つまり小売業やサービス業の割合が圧倒的に高く。第一次産業の割合がかなり低いことがわかる。

4,2 農業

主要な農作物の収穫量は表 4 のとおりである。
主要な農作物は、牧草が大半を占めている。そして、大豆、小豆も他よりも少ないが、生産されている。ここでいうとうもろこしはあくまでもサイレージ用である。なぜこのようなことを言うのかというと、野菜の収穫量に関係している。

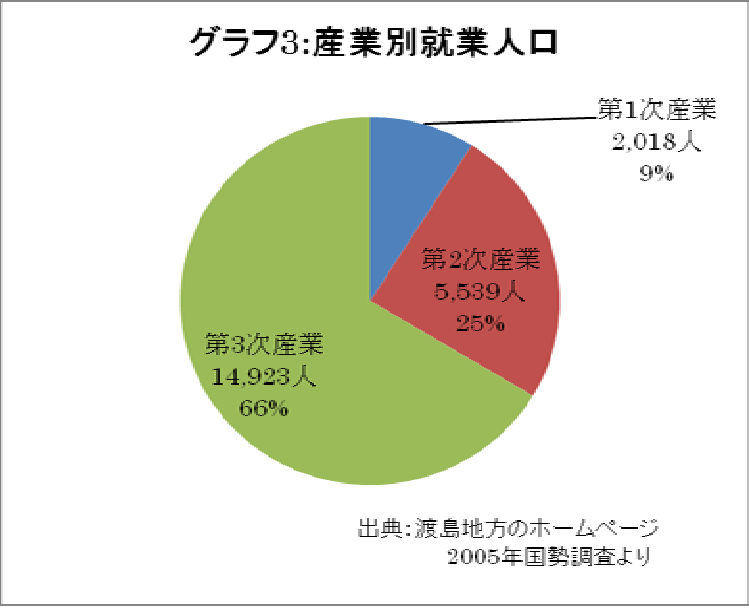


表 3：主要農作物の収穫量（2005 年）
（単位：t）

水稻	5,550
ばれいしょ	2,790
大豆	180
小豆	46
牧草	28,920
サイレージ用とうもろこし	2,576

出典: 渡島地方のホームページ

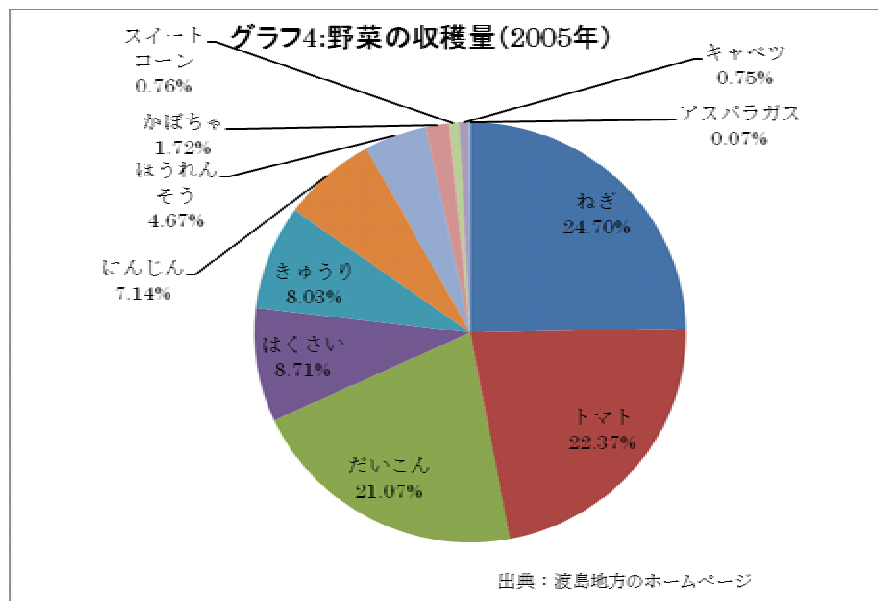


表 4：2005 年の野菜の収穫量（単位:t）

だいこん	3,070
にんじん	1,040
はくさい	1,270
キャベツ	110
ほうれんそう	681
アスパラガス	10
ねぎ	3,600
きゅうり	1,170
かぼちゃ	251
トマト	3,260
スイートコーン	111

出典:渡島地方のホームページ

北斗市では、野菜はトマトが多く生産されている。このためにトマトジュースは北斗市の特産品の 1 つである（後述）。他にはねぎ、大根が多く生産されている。主要な農作物でサイレージ用とうもろこしは多く生産されていたのに、スイートコーンの生産量は少ない。このことから北斗市では、トウモロコシの生産目的は食用ではないことがわかる。

4.3 水産業

漁獲量はかたくちいわし、さけ、ほっき貝が多く獲られている。ほっき貝は特産品である（後述）。こんぶは数量は低いが、金額はさけに続く高さを誇っている。これはわかめが北斗市の特産品であることも関係していると思われる（後述）。そして、数量だけでみると、魚類が多めに獲れているが、いかななどのその他の水産動物、貝類、海草類のほうが全体的に金額が魚類よりやや高めなものが多い。おそらくこれらは質がよいから高く売れていると判断できる。

北斗市の漁獲量は表 5 のとおりである。

表 5：漁獲高（2005 年）

	数量(単位:t)	金額	するめいか	44	11,187
かたくちいわし	535	36,694	やりいか	1	993
さけ	639	195,224	みずだこ	27	12,758
ます	9	6,367	やなぎだこ	1	215
たら	2	1,616	なまこ	33	35,240
ほっけ	33	3,665	えぞばふんうに	1	2,448
さば	52	712	きたむらさきうに	5	19,799
ひらめ	18	29,187	その他の水産動物	37	10,951
そうはち	1	142	ほたて貝	36	13,678
その他のかれい類	44	28,427	ほっき貝	114	37,909
ぶり	22	5,679	あわび	1	8,911
さめ類	1	267	つぶ類	16	4,107
あいなめ	9	6,324	その他の貝類	1	620
そい類	8	3,113	こんぶ	52	61,199
その他の魚類	67	29,385	わかめ	16	9,143
			その他の海藻類	2	6,419
合 計				1,832	587,897

出典:渡島地方のホームページ

4.4 工業

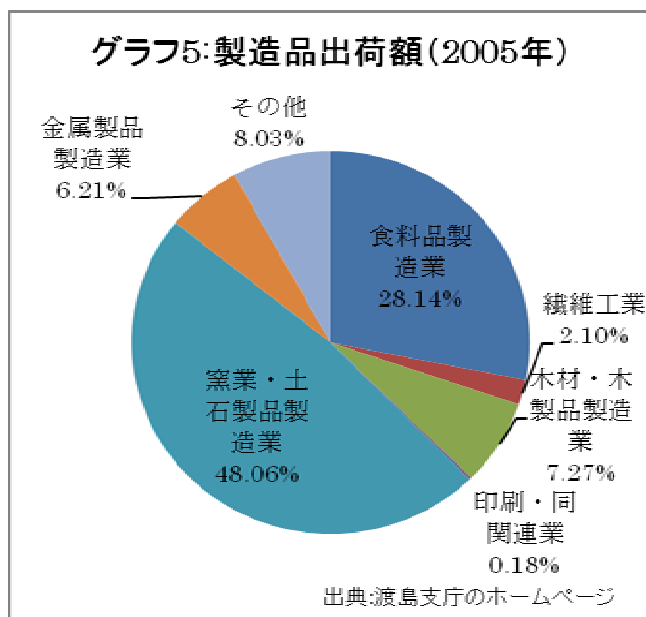


表 6:製造品出荷額(2005 年)

(単位:円)

食料品製造業	1884115
繊維工業	140694
木材・木製品製造業	486854
印刷・同関連業	12238
窯業・土石製品製造業	3217778
金属製品製造業	415428
その他	537656
総数	6694763

出典:渡島地方のホームページ

北斗市の工業は、食料品製造業と窯業、土石製品製造業の出荷額が多い。
食料品製造業は「マルメロ製品」や「トマトジュース」などの特産品（後述）の影響も

大きいと思われる。

窯業、土石製品製造業の製造品の出荷額が多いのは、他の工業では事業所の数は2～6件、従業者の人数は多くても3桁はいないのに対し、窯業、土石製品製造業は事業所の数8件、従業者の人数285人とやや多かったことが理由の1つであると思われる。

4.5 商業

北斗市の商業は、小売業の中では飲食料品小売業が多いことがわかる。これは「マルメロドリンク」や「ワイン」などの特産品(後述)の影響もあったと思われる。

ちなみに、卸売業、小売業それぞれの事業所数と従業者数は、卸売業が519件、4107人、小売業が102件1130人である。小売業は卸売業の約4分の1程度の規模なのに、卸売業の半分以上の販売額であるのは凄いことであると思う。

表 7:産業分類別年間商品販売額

小売業	卸売業	13043729
	織物・衣服・身の回り品小売業	323580
	飲食料品小売業	1997973
	自動車・自転車小売業	180739
	家具、じゅう器、機械器具小売業	389570
	その他の小売業	4237042
	小売業合計	7128904

出典:渡島地方のホームページ

5 特産物

5.1 マルメロ製品

まず、マルメロとはバラ科 *Cydonia* 属の唯一の種であり、カリン（バラ科）やボケに近縁な果樹。リンゴや西洋ナシとも比較的縁が近い。熟した果実は明るい黄橙色で洋梨形をしており、長さ7-12cm、幅6-9cmである。果肉は硬く、強く香りがある。花は春、葉が出た後に咲き、大きさは5cm、色は白またはピンクで5枚の花弁がある。ちなみに、もともとマルメロは旧大野町の特産物である。そのマルメロを使いファイン、ジャム、ドリンク、ワインなどの数多くのマルメロ製品が生産されている。（写真1）

写真 1:マルメロ製品(上からジャム、ドリンク)



出典:北斗市役所ホームページ

5,2 各種ワイン

北斗市では、先述のマルメロワインの他にも姫リングワインやいちごワインといったワインの生産も盛んである。(写真 2)

5,3 トラピスト製品

海峡を津軽見おろす山麓に建てられた赤レンガのトラピスト修道院(後述)の製品である。豊かに広がる田園から様々な種類の良質な農産物加工品が生みだされている。(写真 3)

写真 2: 各種ワイン



出典: 北斗市役所ホームページ

写真 3: トラピスト製品



出典: 北斗市役所ホームページ

5,4 農産物

花卉、トマトジュース、北海ウドなどが多く生産されている。(写真 4)

上磯地区産のトマト『桃太郎ファイト』は甘みがあって、スライスしてもくずれないほど実がしまっていることが自慢である。その桃太郎を 100%使ったのがこのトマトジュースである。トマト本来の風味を生かし、さらりとした飲み心地が評判を呼んでいる。「トマトづくり 30 年」という生産者もオススメの一品なのである。

冬場のビニールハウスで穫れる上磯地区のウドは、天然ものと比べアクが少なく食べやすいのが特徴である。サラダ、酢味噌あえ、天ぷらなど多彩な料理に用いられる。18 年前、旧上磯町の農家が北海道で初めてハウス栽培に成功し、現在では『北海ウド』のブランド

写真 4: トマトジュース(上) ウド(下)



出典: 北斗市役所ホームページ

ンド名で知られている。

5.5 海産物

海峡わかめ、海峡ふのり、ホッキ貝、煮干しなどが生産されている。(写真5)

北斗市のホッキ貝は上磯地区を代表する特産品である。刺身はもちろんバター焼き、ホッキご飯、カレーライスの具などにと調理法は多彩である。また、漁の様子も上磯地区ならではのもの。4本の爪のついた長い棒で海底を探り当て1個ずつ採るという珍しい漁法は地元で『ほっき突き』と呼ばれている。「経験と感だけが頼り」という漁師の技が生み出す海の幸である。

北斗市のホタテ貝は「上磯地区のホタテは粒が大きくてうまいんだわ」と地元の漁師さんもオススメである。津軽海峡の荒海に育まれたホタテ貝は身が引き締まって歯ごたえ、甘みともに十分である。貝柱は高タンパクで低カロリー、ミネラルも豊富ですので女性にも人気の『海の幸』なのである。

『海峡わかめ』は春に水揚げされた養殖ワカメをすぐ湯通しして、荒塩を混ぜ合わせ、芯をぬき食べやすく仕上げたものである。水に入れて一度もどしてから食卓へ。

「上磯地区のワカメはとても柔らかく、体にもよいのでぜひお召し上がりください」と浜のおっかさんもおすすめの1品なのである。

6 観光

6.1 トラピスト修道院

北斗市で有名な観光名所の内の1つにトラピスト修道院(写真6)がある。

トラピスト修道院の正式名称は『厳律シ

写真 5:海産物(上から海峡わかめ、ホッキ貝、煮干し)



出典:北斗市役所ホームページ

写真 6:トラピスト修道院



出典:北斗市役所ホームページ

トーの会灯台の聖母大修道院』という。1896年に、フランスから9人の修道士たちがこの地を訪れ、日本最初の男子トラピスト修道院を創設した。現在の赤レンガの建物は、最初の修道院が焼失したため、1908年に建てられたものである。

6,2 檜沢の滝、小滝の沢

北斗市内には有名な滝が2つある。檜沢の滝と小滝の沢である。(写真7)

檜沢の滝は国道227号線から30分歩けば到着する。高さ15m、幅12mの滝が目を楽しませてくれる。小滝の沢は国道227号沿いから見える。高さ12m、幅7mの滝である。

6,3 三木露風の詩碑

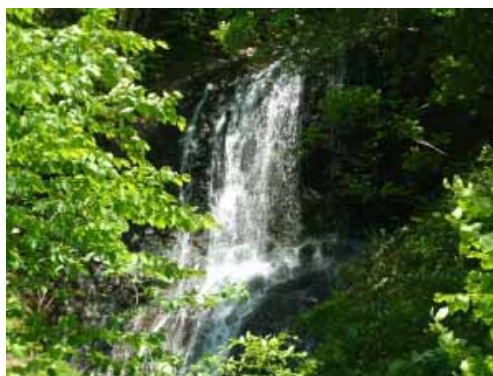
詩人・三木露風は、1920年から4年間、日本文学の講師として修道院に滞在し、『赤とんぼ』『野ばら』などの歌詞はここでの体験をもとに生まれたと言われている。詩碑には、「日は輝やかに 沈黙し 時はおもむるに 移り行けり美しき地上の 断片の如く 我命は 光の中に いきづく」という詩文が記されている。

6,4 男爵資料館

男爵いもの生みの親、川田龍吉男爵の農場後地を利用した資料館で、大正時代に建てられたキング型牛舎を利用した館内には、当時としてはたいへん珍しかったアメリカ製農機具や生活用品などの貴重な資料が展示されている。(写真8)

入館料は大人 300円、小・中学生 300円。

写真7: 檜沢の滝(上写真)と
小滝の沢(下写真)



出典: 北斗市役所ホームページ

写真8: 男爵資料館



出典: 北斗市役所ホームページ

7 イベント

7,1 陣屋桜まつり

陣屋桜まつりは5月上旬に実施される。開催場所は松前藩戸切地陣屋跡。地元よさこいチームが踊りを披露したり、地酒の振舞酒を行う。(写真 9)

7,2 八郎沼まつり

八郎沼まつりは6月第3日曜日に実施される。北斗市民の憩いの場である八郎沼公園を舞台にして、多くの人が集う観光協会主催の観光振興のイベントである。(写真無し)

7,3 北斗市夏祭り

北斗市夏祭りは毎年7月第4日曜日に実施されている。開催場所は北斗市商業活性化支援センター「エイド'03」である。山車行列や花火大会、上磯駅前で歩行者天国などを行っている。(写真 10)

7,4 ふるさとの夏まつり

8月上旬に行われる。開催場所は北斗市運動公園広場である。夜空を彩る花火大会や仮装盆踊りでにぎわう真夏の夜のイベントなのである。(写真 11)

この他にも10月に商工観光まつりや、11月3日に北斗市さけまつりなどのイベントが実施されている。

写真 9:陣屋桜まつりの様子



出典:北斗市役所ホームページ

写真 10:北斗市夏祭りの様子



出典:北斗市役所ホームページ

写真 11:ふるさとの夏まつりの様子



出典:北斗市役所ホームページ

出典

ウィキペディアフリー百科辞典:<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%96%97%E5%B8%82>

渡島地方のホームページ:<http://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/index.html>

北斗市役所のホームページ:<http://www.city.hokuto.hokkaido.jp/>

行財政概要中用紙 概要:<http://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/C4E8EDBB-4B8E-4709-A8B5-023E4EA420AA/0/gaiyou.pdf>

北海道庁のホームページ:<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>